

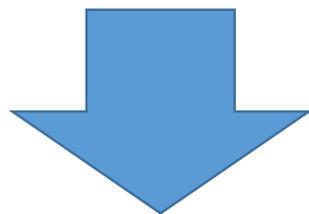
平成28年度 認知症の対応策(4つの柱)

認知症医療の充実

認知症ケアの質の向上

認知症の正しい理解の
普及・啓発

認知症高齢者と家族を
支える仕組みづくり



認知症になっても安心して暮らせるまち「いこま」の実現！

① 認知症医療について

課題

- ◆ 専門医が少ない
- ◆ 認知症に關与する医師が少ない
- ◆ 行動異常のある患者を受け入れる施設が少なく、すぐに受け入れられない状況にある
- ◆ 歯科の場合、認知症患者に対して関心が少ない
- ◆ 受診につながらない

目指すべき状態

- ◆ 初期対応のできる医師が身近にいる
- ◆ 病院内においてBPSD等の対応に熟知したスタッフが育っている
- ◆ どの歯科医においても認知症患者に対応できる

取組

- ◆ かかりつけ医の対応力向上研修の受講者を増やす・・・×
- ◆ 多職種連携でBPSD等の対応を学ぶ機会を設ける…………○
- ◆ 専門職用の認知症ケアパスを作成する……………×

②認知症ケアについて

課題

- ◆慢性疾患で介護保険利用を始めた後に発症することも多く、ケアマネも認知症に対する理解の促進がなお必要である
- ◆認知症の方や家族が利用できるサービスの把握ができていない
- ◆予防、早期相談、早期診断、早期治療がスムーズに連携できていない
- ◆BPSD等の大きい方が預かってもらえる施設がない

目指すべき状態

- ◆認知症患者の対応に熟知したスタッフが育っている(再掲)
- ◆介護の詳しい情報提供のできる人が生活圏域に存在する
- ◆一般市民・専門職対応用の認知症ケアパスがあり、各病院や相談機関等においても配布ができる
- ◆関係機関、多職種が連携し、予防・早期発見・早期支援体制が強化される

取組

- ◆施設職員向けにBPSD等への対応を学ぶ機会を設ける……………×
- ◆専門職用の認知症ケアパスを作成する(再掲)……………×
- ◆認知症対応施設の見学(グループホーム、病棟など)……………○
- ◆初期集中支援チームの活動を有効に活かすための啓発活動……△

③ 認知症の正しい理解について

課題

- ◆ 成年後見制度の利用方法など、啓発的な講演会や広報等が不足している
- ◆ 認知症の方や家族が相談できる窓口の認知度が低い(周知不足も含む)
- ◆ 市民が認知症のことを身近なこと、自分事としてとらえ切れていない。

目指すべき状態

- ◆ 認知症サポーター養成講座等を大半の市民が受講し、認知症の理解が深まっている
- ◆ 気軽に相談できる窓口の周知が徹底され、早期に利用ができる
- ◆ 認知症のことを身近なこと、自分事として理解する市民が増える

取組

- ◆ 認知症サポーター養成講座の積極的展開(小中学校、店舗等)・・・○
- ◆ 認知症ケアパスを作成し、広く市民に配布する・・・・・・・・・・・・・・・・△
- ◆ 一般市民向け認知症フォーラムの開催・・・・・・・・・・・・・・・・○

④ 認知症高齢者を取り巻く環境について

課題

- ◆ 認知症の理解がまだまだ地域に浸透していないと感じる
- ◆ 認知症とその家族が利用できるサービスの把握ができていない
- ◆ 世間体を気にして、認知症であることを地域に表面化することが困難である
- ◆ 認知症患者に対応する社会的資源が不足している

目指すべき状態

- ◆ 近隣住民が認知症を理解し、僅かな変化にも関心を持ち、声をかけられる、又は適切な相談機関につなげられる
- ◆ 早期に発見し、治療が開始できるよう、認知症に対し手を差し伸べてくれる地域のコミュニティができている
- ◆ 状態像に応じた社会資源が整っている

取組

- ◆ 認知症ケアパスを作成し、広く配布する(再掲)……………△
- ◆ 認知症サポーター養成講座の積極的展開(再掲)……○
- ◆ 認知症対応者(認とも)養成講座の実施……………○
- ◆ 徘徊高齢者の模擬訓練の積極的展開……………○
- ◆ コミュニティカフェや認知症カフェの増設……………○
- ◆ 認知症高齢者のニーズを把握し、整理する……………○